

2014年度

8—9月号

(通巻 153号)

市立

いちかわ

自然博物館だより

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！

いきもの
写真館



自然博物館収蔵写真

ミシシippアカミミガメ
ペットのミドリガメのことで、逃がされて増えていきます。魚をよく食べるので、生態系への悪影響が心配です。

- P 1 ☀️ いきもの写真館
ミシシippアカミミガメ
- P 2 ☀️ 同じ場所を何度か訪れる
3 坂川旧河口
7月24日
- P 4 ☀️ 花屋の花を観察する
スターチス

- P 5 ☀️ 街かど自然探訪
曾谷・曾谷貝塚の原っぱと夏空
- ☀️ くすのきのあるバス通りから
セミ情報
- P 6 ☀️ むかしの写真で見る 昭和の風景
公園になる前のじゅん菜池
- P 7 ☀️ わたしの観察ノート
5月～6月ごろの記録
- P 8 ☀️ 行事案内



同じ場所を何度か訪れる

坂川旧河口

7月24日

【絶滅危惧種フジバカマ】

坂川旧河口は、古くから知られたフジバカマの自生地です。フジバカマは「秋の七草」にも挙げられている野草ですが、近年は野生株の生育地が減少し、絶滅危惧種とされています。特に、長期間にわたって安定してフジバカマが生育する場所は少なく、坂川旧河口は千葉県内唯一の確実な自生地として知られています。

現在、自生地は簡単な柵で保護されています。新堤防を作る際にさまざまな保全策が講じられ、その後はボランティアの方に草刈りを続けていただき、市民団体のみなさんが調査に取り組むなど、おおぜいの人に支えられて現在に至っています。



花芽をつけたフジバカマ

フジバカマ保護地

画面中央が自生地で、手前に低い手すりがあります。その奥の木々に沿って坂川のむかしの河道があります。遠方は市川駅方面。



【バッタやチョウ】

訪れた日は、梅雨明けから3日目の風の無い蒸し暑い日でした。市川市街の高層ビルは水蒸気でぼやけ、堤防上のサイクリング道をゆく人はまばらでセミの声だけが響いていました。

坂川旧河口は、市内では数少ない草原的な環境です。バッタ類が数多く生息し、この日も、足元ではショウリョウバッタが途切れることなく姿をあらわし、トノサマバッタは、突然飛び出して巧みな飛行を見せてくれました。草のかげでは、カマキリ（おそらくチョウセンカマキリ）の若虫が獲物を食べているところでした。

堤防の斜面ではアカツメクサが草刈り後に咲きなおしたようで、花の少ない時期の貴重な餌場になっていました。モンシロチョウやモンキチョウなどのチョウ類ばかりではなくハラナガツチバチ類など、蜜や花粉を求めるハチの姿もよく見られました。

【7月の植物】

フジバカマは花芽が出たところで、開花までひと月はかかりそうでした。逆にノカラマツは花が終わって若い実になっていました。ヘクソカズラやシロバナサクラタデはちょうど見ごろでした。ユメノシマガヤツリは、人の腰くらいの高さがある中型のカヤツリグサです。埋立地の「夢の島」で最初に見つけたことにちなんで、この名前がつけられました。帰化植物らしく分布が拡がり、この場所で毎年見ることができます。

オニグルミは、江戸川べりに点々と生えています。毎年のように上流から流れてくる実のいくつかが根つき、成長したものです。なかには実をつける株もあり、この日も丸い緑色の実がいくつもついている木を見つけることができました。



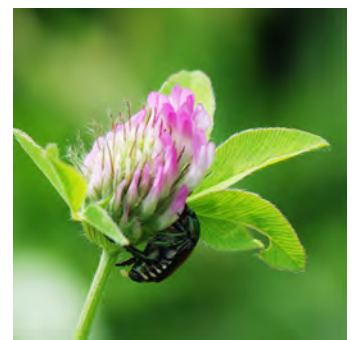
ショウリョウバッタ



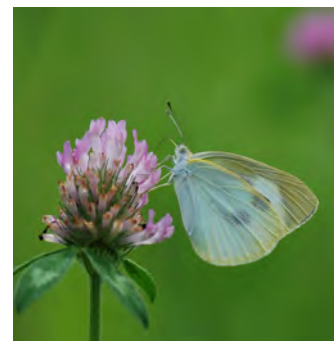
トノサマバッタ



カマキリ的一种



マメコガネ



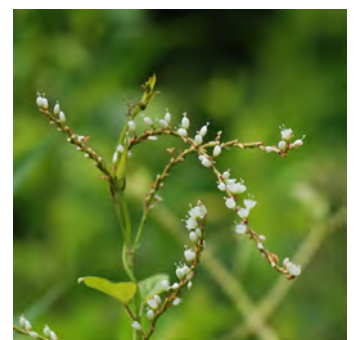
モンシロチョウ



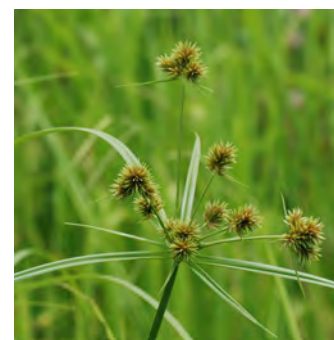
モンキチョウ



ノカラマツ



シロバナサクラタデ



ユメノシマガヤツリ



オニグルミ

花屋の花を観察する

スターチス



スターチスは、この花自体が主役になることがない、「名脇役」のような存在です。でも花束や花瓶にがあると、一目見て存在に気づきます。スターチスがスターチスらしく見えるのは、一つ一つの花の特徴ではなく全体的な枝振りや花のつき方が「らしい」からです。

花は、どの種類であれ、何らかのルールに従って枝に並んでいます。そういう並び方を「花序」と呼びます。スターチスの花序を見ると、全体的な形は「木の枝」のように見えます（写真1）。花のひとかたまりを下

から見ると、たくさんの花が互い違いに枝に並んでいることがわかります（写真2）。横から見ると、花のかたまりがつく枝の長さが先端に向かうほど短くなり、結果として花の部分が横一列、水平に並んで見えます（写真3）。この並びが、スターチスをスターチスらしく見せています。さらに花のかたまり一つを見てみると、やはり行儀よく花が並んでいます（写真4）。

上下左右、角度を変えて眺めることで、花序の全体像は見えてきます。



写真1 スターチスの全体の枝ぶり



写真2 花のかたまりを下から見た



写真3 花が水平に並ぶようす



写真4 個々の花の並び方



街かど自然探訪

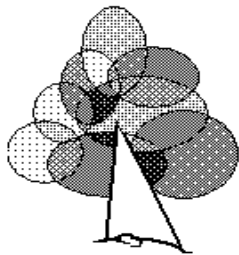
おじゃまします!

そや 曾谷・曾谷貝塚の原っぱと夏空

暑さが厳しい日、曾谷貝塚に行きました。住宅地の中を行くと、白い木の柵に囲まれた、広々とした原っぱがありました。シロツメクサと牧草のような草が茂る草むらに入ると、まだ小さいショウリョウバッタやトノサマバッタの仲間が次々と飛び出し、大きなショウリョウバッタはキチキチ鳴きながら飛んで行きました。餌を捕るツバメは、広い青空をひゅんひゅん飛びまわっています。江戸川の土手などを除くと、誰でも入ることができる広い原っぱは意外とないものです。



△広々とした原っぱは、地面の中の貴重な遺跡を守っています。さえぎるものが無く、空がとても広く見えました。



くすのきのあるバス通りから No.95

セミ情報

台風がかすめた後南風が入り、7月11日と12日と気温が市川や松戸で34℃になりました。13日、市川考古博物館に行った時、堀之内貝塚でニイニイゼミがたくさん鳴いていました。自然博に報告しなくちゃ!と電話すると、「大町はヒグラシが鳴いていますよ」と言われ、少しがっかり。「14日には八千代台でもヒグラシが鳴いていた。18日には八幡6丁目でミンミンゼミが鳴いた」と娘からもセミ情報。20日に私も自宅近くでミンミンゼ

ミの声を聞きました。7日にはアオスジが白いアオスジアゲハを目撃。クスノキのヒコバエに卵を産もうとしているアオスジアゲハを見て、後日卵を見つけようと思うと行くと、草取りとともにヒコバエも切られていました。ナガサキアゲハをやっと思かけたことに感激したりしました。初見日や珍しいものを追って、身近な自然や街中の自然に目が行っていなかったことに反省してます。

(M.M.)

むかしの写真でみる

昭和の風景

昭和48（1973）年 撮影

公園になる前のじゅん菜池



写真提供 岩瀬徹氏

現在の「じゅん菜池公園」（正式にはじゅん菜池緑地）がある谷の、昭和時代の景観です。いまの公園入口側から奥を向いて撮影したもので、画面左に国府台小学校の校舎が写っています。

明治時代の地図を見ると、この場所には細長い池が描かれていて（ちやうど今の公園全域が水面になっている）、「蓴菜池」や「蓴菜沼」と表記されています。名前の通りジュンサイが生育していたのでしょう。その後、田んぼとなり、昭和の時代に田んぼが放棄され、荒地の時代を経て今に至っています。写真は、ちやうど稲作を止めたころのもので、田んぼが休耕田へと姿を変えつつあります。生活排水が流れ込んだ時期もあったそうです。

わたしの 観察ノート

◆長田谷津より

- ・シオヤトンボがよく飛んでいる水辺に、クロスジギンヤンマの雄がゆうぜんと飛んできました(5/10)。
- ・園路のあちこちでニホンカナヘビの姿を見かけました(5/25)。博物館で展示しているカナヘビは、飼育ケースの中で卵を産みました。
- ・お客さんで賑わう動物園のすぐそばで、何回かホトトギスの声が聞こえました(6/1)。ホトトギスやカッコウの声は、例年、5月下旬ごろによく聞かれます。

以上 金子謙一(自然博物館)

◆真間山より

- ・南側斜面林下で、早春をかざったオオイヌノフグリやヒメオドリコソウにかわって、ハルジオン、キュウリグサなどが咲きほこるようになりました(4/13)。暖かさにさそわれて、クロアゲハ、キチョウも飛びはじめました。
- ・南側斜面林下で、アゲハチョウ(4/29)アオスジアゲハ(5/2)、ゴマダラチョウ(5/17)など、日射しをあびて飛びまわっています。

◆国府台より

- ・国府台緑地の縁で、ウラシマソウが咲いていました(4/19)。じゅん菜池に向かう途中で発見しました。

以上 M.T.さん

◆小塚山より

- ・樹林地の縁を彩るように、カマツカの白い花が咲いていました(6/17)。ムラサキシキブの花も見られました。

須藤 治(自然博物館)

- ・朝の6時30分頃、アカシジミを見ました(6/5)。小塚山で見るとは何年振りかで、もういなくなったと思っていたのでほっとしました。しばらく下草のまわりを飛んでましたが、そのうちに高木の中に消えてゆきました。

◆中国分より

- ・住宅街で、ゴマダラチョウより少し大きめの蝶々が悠然アサギマダラのように飛んでいて、近くに止まったので良く見ると、アカボシゴマダラでした(5/27)。とてもきれいでしたが、帰化種に席捲されそうなゴマダラチョウが心配です。
- ・じゅんさい池と小塚山の中間の緑地にオスのキジがいました(5/21)。頭から尾の先まで80cm位に見えました。キジもとても驚いて、走ったり、隠れたりしてましたが、そのうちに飛んで行きました。

以上 道下 誠さん(中国分在住)

◆江戸川放水路より

- ・干潟はカニたちでいっぱいでした(5/18)。手前ではチゴガニ、奥ではヤマトオサガニがよく動いていました。
- ・干潟の水ぎわを歩くと、小さなマハゼがさざ波のように逃げていきました(6/10)。今年もマハゼがたくさんうまれたようです。

金子謙一

晴れると厳しい日差し、崩れると激しい雨になりました。6月5日頃の梅雨入り後もその傾向は続きました。



行事案内



おやこ自然観察会

お申し込みが必要です。

おやこで楽しむ自然観察です。

- ・場所 自然博物館(市川市大町)周辺
- ・時間 午前中 1時間半～2時間
- ・定員 各回とも、先着20名、親子対象です。

テーマ	日にち	受付開始日
昆虫と水辺のいきもの	9月14日⑩	8月16日より
どんぐり拾い	10月12日⑩	9月20日より

お申し込み方法

受け付け開始日以降に
往復はがきに参加者全員の
住所、氏名、年齢、電話番号、
返信面に返信の宛先を明記の上、
下記までお申込みください。

〒272-0801 市川市大町 284 番地
自然博物館「〇月観察会」係まで

長田谷津 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

毎月1回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しみます。

- ・日時 9月6日⑩、10月4日⑩、11月1日⑩、
午前10時～11時30分
- ・集合場所 動物園券売所前 午前10時

新

観察シートを使った観察会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

観察シートを使って、自分で歩いて自分で見つける観察会です。

ご家族でも、個人でも、お気軽にご参加ください。

- ・日にち 8月10日⑩、11月9日⑩、平成27年3月15日⑩、
- ・集合場所 観賞植物園 (自然観察園を各自、各グループごとに歩きます)
- ・時間 10時から12時の間で、スタート・ゴールの時間は各自のペースでどうぞ

長田谷津ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いしていただきませんか。

(雨天中止)

- ・日時 9月28日⑩、10月26日⑩、(8月はお休み) 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けの
お手伝いをしていただきませんか。

(申し込み不要・雨天中止)

- ・日時 9月7日⑩、10月5日⑩、11月2日⑩、
午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・自家用車をご利用の場合は、博物館までお電話でお問い合わせください。

第26巻 第3号 (通巻第153号)

平成26年8月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館
(市川市教育委員会生涯学習部自然学習課)

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477

<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/shisetsu/haku/>